

早わかり！単元計画の作成手順

～中学校保健体育 第1学年及び第2学年
E球技 ゴール型「サッカー」を例にして～

1. 指導内容(指導事項)を確認する ……「学習指導要領解説」を読みましょう！

- 指導すべき内容を指導者が分かっていなければ、子どもに力をつけることはできません。
- 「学習指導要領解説」には、下のように指導内容が示されています。
- (1)は、知識及び技能です。(2)は、思考力、判断力、表現力等です。(3)は、学びに向かう力、人間性等です。



ゲームの展開について、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

知識及び技能

(1) 次の運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、球技の特性や成り立ち、技能の名称や行い方、その運動に関して高まる体力などを理解するとともに、基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームを展開すること。

ア ゴール型では、ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防をすること。

思考力、判断力、表現力等

(2) 攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。

学びに向かう力、人間性等

(3) 球技に積極的に取り組むとともに、フェアなプレイを守ろうとすること、作戦などについての話し合いに参加すること、一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとする、仲間の学習を援助しようとするなどや、健康・安全に気を配ること。

2. 単元の目標を設定する ……単元でどんな力をつけるのか明確にしましょう！

- 上記の指導内容をもとに、必要な記述を抜き出して単元の目標を設定します。
- (1)が知識及び技能。(2)が思考力、判断力、表現力等。(3)学びに向かう力、人間性等です。
- 単元の目標の語尾は、「～することができるようにする」と表記します。



(1) 次の運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、球技の特性や成り立ち、技能の名称や行い方、その運動に関して高まる体力などを理解するとともに、基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームを展開することができるようにする。

ア ゴール型では、ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防をすることができるようにする。

(2) 攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。

(3) 球技に積極的に取り組むとともに、フェアなプレイを守ろうとすること、作戦などについての話し合いに参加すること、一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとする、仲間の学習を援助しようとするなどや、健康・安全に気を配ることができるようにする。

3. 単元の評価規準を設定する ……評価のための判断のよりどころを決めよう！

「単元の評価規準」作成における【観点ごとのポイント】を整理します。



知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・知識については、文末を「～について、言ったり書いたりしている」あるいは、「～について、学習した具体例を挙げている」として、評価規準を作成する。 ・技能については、文末を「～(行い方・対処)について、(～が)できる」として、評価規準を作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文末を「～している」として、評価規準を作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文末を「～しようとしている」として、評価規準を作成する。

指導内容の例示を確認しながら、フォーマットに則って設定します。



知識	技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①球技には、集団対集団、個人対個人で攻防を展開し、勝敗を競う楽しさや喜びを味わえる特性があることについて、言ったり書き出ししたりしている。</p> <p>②球技の各型の各種目において用いられる技術には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。</p>	<p>①ゴール方向に守備者がいない位置でシュートをすることができる。</p> <p>②得点しやすい空間にいる味方にパスを出すことができる。</p> <p>③ボールとゴールが同時に見える場所に立つことができる。</p>	<p>①提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えている。</p> <p>②仲間と協力する場面で、分担した役割に応じた活動の仕方を見付けている。</p> <p>③仲間と話し合う場面で、提示された参加の仕方当てはめ、チームへの関わり方を見付けている。</p>	<p>①練習の補助をしたり仲間に助言したりして、仲間の学習を援助しようとしている。</p> <p>②健康・安全に留意している。</p>

○上表には、10の評価規準があります。次に、この10を単元の指導計画に従って分配していきます。



4. 指導と評価の計画を作成する

- 単元の評価計画を単元の展開計画と合わせて作成していきます。
- 全10時間の中で、何時間目にどの観点のどの評価規準について、どのような方法で評価するのか計画を立てます。
- 1時間に行う評価の数は、1～2つに設定します。2つ評価する場合は、別の評価方法が有効です。



単元の指導計画(例) E 球技 ゴール型「サッカー」 中学校 第1学年

時		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
学習の流れ	0	健康観察・本時のねらいの確認・準備運動										
	10	オリエンテーション	ボール操作 シュート パス トラップ	ボール操作の反復練習							最終リーグ戦②	最終リーグ戦②
				空間に走り込むなどの動き ボールとゴール	課題の確認と解決の練習 ボール操作 空間に走り込む			簡易ゲームの修正 最終リーグ戦①				
	30	ボールゲーム慣れ	シュートゲーム ゲーム記録の活用	グリッド突破ゲーム 仲間の即時の助言	簡易ゲーム 人数・コート・ルール等の簡易化				単元のまとめ			
	40				整理運動・学習の振り返り・次時の確認							
50												
評価機会		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
	知識	①力	(②)力	(②)		②力					総合的な評価	
	技能			①観・I		②観・I	③観					
	思・判・表						②力・I	①力・観		③力・観		
態度		②観・力		①観・力								

【※ 力：学習カード 観：観察 I：ICT】

5. 単元の指導計画(指導と評価の計画)をもとに、本時の評価規準を具体的にする

【単元の評価計画にある第7時目の評価規準】 = 【具体的にした第7時の評価規準】

提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えている。

保健体育は、具体的にしたものを単元の評価規準として設定するので、基本的に再設定は行いません。

A児
「提供された練習方法から、場面に対応した適切な内容で、自己やチームの課題に応じた練習方法を選ぶことができる。」

「十分満足できる状況」と評価

B児
「提供された練習方法から、自己やチームの課題に応じた練習方法を選ぶことができる。」

「おおむね満足できる状況」と評価
評価規準

C児
「自己や自己のチームの課題を解決する練習方法を選ぶことが出来ていない。」

「努力を要する状況」と評価



○評価規準を設定する場合、指導内容の例示を参考にします。子どもの実態を把握し、どのレベルを評価規準(B)とするかが大切です。
○C児は、自己やチームの課題が理解できていません。この時間では、ゲームの攻防をする上で、基本的な技能や仲間と連携した動きの課題の発見が必要となります。

課題に応じた練習方法を選択できるように、掲示物やICTを活用して視覚からの情報で示したり、声かけ・練習の支援を行う。